



## 小児看護学実習初期における「子どもとの関係アセスメント尺度」の開発

著者	小代 仁美
内容記述	学位記番号：論看第26号，指導教員：榎木野 裕美
URL	<a href="http://doi.org/10.24729/00005487">http://doi.org/10.24729/00005487</a>

## 要 約

**【目的】** 小児看護学実習初期に学生が子どもとの関係をアセスメントする子どもとの関係アセスメント尺度の開発を目的とした。また、尺度活用に関する検討をした。

**【方法】** 1 から 3 の 3 段階の方法で尺度開発し、4 の方法で尺度活用を検討した。

- 1. 尺度原案の作成：** 小児看護学実習初期における学生の子どもとの関係に関する概念分析及び文献検討，教員を対象とした質的研究(予備研究 1)結果を基に尺度原案を作成した。
- 2. 尺度原案の内容妥当性・表面妥当性の検証(予備研究 2・本研究 1)：** 専門家(予備研究 2)と看護系大学の学生(本研究 1)を対象に内容妥当性・表面妥当性を検証し，その結果に基づき尺度原案の項目の修正をした。**1) 予備研究 2：** 看護系大学の教員 11 名を対象とした郵送法による質問紙調査を行い，Content Validity Index (CVI) と項目の内容の過不足及び表現に関する意見を得た。調査は大阪府立大学看護学研究倫理委員会の承認を得た。**2) 本研究 1：** 便宜的に抽出した 1 看護系大学学生(4 年次生) 8 名を対象に 4 名ずつのグループインタビューを 60 分程度行い，項目の文章表現が理解できるか，内容は妥当か，追加項目について意見を得た。調査は大阪府立大学看護学研究倫理委員会の承認を得た。**3) 尺度項目の修正：** 予備研究 2 及び本研究 1 の結果に基づき項目修正を検討した。
- 3. 尺度項目の決定および尺度の信頼性・妥当性の検証(本研究 2)：** 全国の看護系大学 13 校の学生 1132 名を対象に郵送法による質問紙調査を行った。調査内容は，子どもとの関係アセスメント尺度，他者理解尺度，学習活動自己評価尺度-看護学実習用である。分析方法として，項目分析，探索的因子分析をして尺度項目の選定をして，尺度の信頼性は Cronbach の  $\alpha$  係数，尺度の妥当性は，併存妥当性の外部基準(他者理解尺度，学習活動自己評価尺度-看護学実習用)との相関分析をした。調査は大阪府立大学看護学研究倫理委員会の承認を得た。
- 4. 尺度活用の検討(本研究 3)：** 本研究 2・3 の両方に回答した 157 名の学生を対象に郵送法による質問紙調査を行った。調査内容は，看護実践力尺度，小児看護学実習達成感ビジュアルアナログスケール(以下 実習達成感スケール)，尺度に対する意見の記述である。分析方法は，各尺度とは相関分析，自由記述は質的分析をした。調査は大阪府立大学看護学研究倫理委員会の承認を得た。

**【結果】** 1. 尺度原案の作成；4 下位尺度 58 項目(6 段階リッカート法)の尺度原案を作成した。

2. 尺度原案の内容妥当性・表面妥当性の検証(予備研究 2・本研究 1) :1)予備研究 2 : CVI

0.6~1 (削除基準 0.8 未満は 7 項目) であった。項目の追加に関する意見は、15 項目であり、項目の表現や内容について、学生が解釈するには難しい、実習初期での回答が困難という意見 (113 件) があった。2) **本研究 1** : 項目の表現や内容について、実習初期の回答では高度、質問内容に複数の内容が含まれるという意見 (85 件) があった。3) **尺度項目の修正** : 尺度原案の 58 項目のうち 11 項目を削除、8 項目追加し、4 下位尺度 55 項目の尺度を作成した。

3. **尺度項目の決定及び尺度の信頼性・妥当性の検証 (本研究 2)** : 回答を得た 235 部 (回収率 21%) のうち有効回答 190 部 (有効回答率 81%) を分析対象とした。項目分析及び探索的因子分析 (主因子法, Promax 回転) により、25 項目を削除し、3 下位尺度 30 項目の尺度を作成した。信頼性では、Cronbach の  $\alpha$  係数 0.758~0.920 であった。妥当性では、他者理解尺度との相関は、 $\rho = 0.191 \sim 0.454$  ( $p < 0.01$ )。学習活動自己評価尺度-看護学実習用との相関は、 $\rho = 0.197 \sim 0.509$  ( $p < 0.01$ ) であった。

4. **尺度活用の検討 (本研究 3)** : 回答を得た 157 部のうち有効回答 150 部を分析対象とした。本尺度と看護実践力尺度との相関は、 $\rho = 0.325$  ( $p < 0.01$ )、本尺度の下位尺度と看護実践力尺度との相関は、 $\rho = 0.213 \sim 0.346$  ( $p < 0.01$ ) であった。下位尺度〈子どもを理解した関係づくり〉と実習達成感スケールとの相関は、 $\rho = 0.172$  ( $p < 0.05$ ) であった。また、関係づくりの視点に気づいた等の意見 (62 件) があった。

【考察】**尺度原案の内容妥当性・表面妥当性の検証 (予備研究 2・本研究 1)** : 予備研究 2 の結果より、約 9 割の項目が CVI 0.8 以上であり内容妥当性があると考えた。CVI が 0.8 未満の 7 項目は削除とした。項目の内容や表現は、予備研究 2 及び本研究 1 の結果と統合して、学生が回答しやすい内容、解釈しやすい表現へと修正が必要と考えた。

**尺度項目の決定および尺度の信頼性・妥当性の検証 (本研究 2)** : Cronbach の  $\alpha$  係数が高く、内的整合性があると考えた。また、外部基準との有意な正の相関があり、併存妥当性があると考えた。

**尺度活用の検討 (本研究 3)** : 本尺度と看護実践力尺度、〈子どもを理解した関係づくり〉と達成感スケールは有意な正の相関を示し、学生が子どもとの関係をアセスメントすることは看護実践力に関係し、子どもを理解してかかわることは達成感に繋がることはいえる。このことより、実習初期に学生が子どもとの関係をアセスメントすることの有用性から尺度活用の可能性があると考えた。

キーワード : 看護学生, アセスメント, 小児看護学実習初期, 子どもとの関係